

岐阜県恵那市において確認されたコキクガシラコウモリ (哺乳綱：コウモリ目：キクガシラコウモリ科) の完全白化個体

山上将史*・石原 淳**・小西久充**

The true albinism of *Rhinolophus cornutus* (Mammalia: Chiroptera: Rhinolophidae)
from Ena City, Gifu Prefecture, central Japan

Masafumi Yamagami*, Jun Ishihara** and Hisamitsu Konishi**

はじめに

コキクガシラコウモリ (*Rhinolophus cornutus*) は日本固有種で北海道、本州、四国、九州、奥尻島、伊豆大島、三宅島、新島、御蔵島、八丈島、佐渡島、対馬、壱岐島、福江島、屋久島、種子島、口永良部島、口之島、中之島、奄美大島、加計呂麻島、徳之島、沖永良部島に分布する (Sano and Armstrong, 2015)。

本種の体毛は淡い褐色を呈し、翼は広短型で、第2指は中手骨のみからなり指骨を欠く。メス是一对の擬乳頭を持つ。同所的に生息するキクガシラコウモリ (*R. hipposideros*) は下唇の裸出部の切れ込みが1本であるのに対し、本種では3本であることで区別できる (佐野, 2011)。

本邦におけるコウモリ類の白化個体に関する報告はいくつか見られるものの、部分白化の例が多く完全白化の例は少ない。コキクガシラコウモリでは、完全白化の例が長崎県対馬で1例 (Kuroda, 1922) あるのみで、部分白化の例は東京都西多摩郡の1例 (今泉ほか, 1966)、山口県秋吉台寺山ノ穴の1例 (庫本, 1967) が報告されているに過ぎない。なお、コキクガシラコウモリ以外では、完全白化としてニホンユビナガコウ

モリ (*Miniopterus fuliginosus*) の例 (大藪, 1982)、モモジロコウモリ (*Myotis macrodactylus*) の例 (Harada et al., 1991) などが報告されている。

筆者らは、国土交通省中部地方整備局矢作ダム管理所発注の矢作ダム水辺現況調査 (両爬哺) 業務において、コキクガシラコウモリの完全白化個体を確認したので、国内におけるコウモリ類の完全白化個体の確認例としてここに報告する。

確認場所

コキクガシラコウモリの完全白化個体を確認したのは、岐阜県恵那市串原の山林にある人工洞窟である。この人工洞窟は、水平方向に掘られた横坑で、素掘りの状態で維持されており、延長約 100 m、途中 45 m 付近ではほぼ直角に折れ曲がった L 字型の構造となっている。入口には扉や柵は設置されておらず、コウモリ類の出入りを阻害する構造物はない。横坑の高さと幅はともに 2 m 程度、内部の湿度は高く、入口付近の地面には常に浅い水溜りが形成されている。横坑の終点付近にはまとまった糞塊が見られ、コウモリ類のねぐらとして利用されている様子が窺える。なお、この横坑

* 株式会社とと・PLANNING. TOTO PLANNING Co., Ltd., 67 Higashiyashiki, Okusa, Chita, Aichi 478-0035, Japan.

** アジア航測株式会社. Asia Air Survey Co., Ltd., 3-15-58 Ozone, Kita-ku, Nagoya, Aichi 462-0825, Japan.

Corresponding author: Masafumi Yamagami. E-mail: yamagami@totopla.com

原稿受付 2017 年 10 月 29 日. Manuscript received Oct. 29, 2017.

原稿受理 2017 年 11 月 30 日. Manuscript accepted Nov. 30, 2017.

キーワード : 岐阜県, コキクガシラコウモリ, 完全白化個体.

Key words : Gifu Prefecture, *Rhinolophus cornutus*, true albinism.

では、筆者らの調査によりコキクガシラコウモリとキクガシラコウモリの2種が確認されている。

確認状況

コキクガシラコウモリの完全白化個体は、2017年1月17日の調査で確認され、528個体のうち白化個体は1個体のみであった。

この個体は横坑のほぼ最奥部に形成された十数個体の群れの中に埋もれるような状態で発見された(第1図)。発見した時点では周囲を他の個体で囲まれていたため頭部と腕の一部しか確認できなかったが、他の個体を除けて全身を確認したところ完全白化であることが明らかとなった。



第1図. 完全白化個体の発見時の状況。



第2図. 個体の状況。
体毛は白く、耳介と手膜に血管が明瞭に確認されるほか、鼻葉に毛包と思われる複数の朱斑が見られる。

この個体は、眼、皮膚、体毛の全てにおいてメラニン色素を欠いており、体毛は白色で、前腕の中央から手首にかけての部分と指は石竹色、前腕の中央から肘にかけては薔薇色を呈していた。また、耳介や手膜の皮膚下に血管を明瞭に確認することができた。その他の特徴としては、鼻葉に血洞毛の毛包であると考えられる複数の朱斑が見られた(第2図)。

謝 辞

国土交通省中部地方整備局(矢作ダム管理所)には今回の記録を公表することを快諾していただいた。また、本業務の河川水辺の国勢調査アドバイザーである天野保幸先生には業務全般のご指導を頂いた。愛知学院大学歯学部解剖学講座の子安和弘博士には国内外のコウモリ類に関する文献情報をご提供頂いたほか、本報告の内容についてご指導を頂いた。以上の方々、並びに現地調査に参加した調査員の方々に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Harada, M., Swada, I. and Aso, K., 1991. Albinism in the Japanese Large-footed Bat *Myotis macrodactylus*. *J. Mammal*, **16**(1): 37–39.
- 今泉吉典・吉行瑞子・土屋公幸, 1966. コウモリの部分白化. 哺乳動物学雑誌, **3** (2): 44–45.
- 庫本 正, 1967. 秋吉台における洞窟性コウモリの部分白化. 秋吉台科学博物館報告, (4): 77–81.
- Kuroda, N., 1922. Notes on the Mammal Fauna of Tsushima and Iki Islands, Japan. *J. Mammal*, **3**: 42–55.
- 大藪 健, 1982. アルビノのユビナガコウモリ. 科学朝日, **42**(5): 18–19.
- 佐野 明, 2011. コキクガシラコウモリ. コウモリの会(編), コウモリ識別ハンドブック, 文一総合出版, 東京, 20.
- Sano, A. and Armstrong, N. K., 2015. *Rhinolophus cornutus* Temminck, 1834. Odachi, S. D., Ishibashi, Y., Iwase, M. A., Fukui, D. and Saitoh, T. (eds.), *The wild mammals of Japan, 2nd ed.*, Shoukadoh booksellers and the Mammalogical Society of Japan, Kyoto, 61–62.